



GJ-FH12 シリーズ 2ケーブル ボックスカメラ

インストレーションガイド

UD.6L0201D1633A01

私たちの製品を購入していただきありがとうございます。ご質問やご要望がございましたら、お気軽にお問い合わせください。

このマニュアルに技術的に不正確な点や印刷上の問題がある場合があります。内容は通知なしに変更される可能性があります。更新はこのマニュアルの改版時に追加されます。弊社では、マニュアルに記載された製品や手順は迅速に改善、更新していきます。

このマニュアルは、GJ-FH12HD-VF に適用されます。

免責条項

Underwriters Laboratories Inc. (以下「UL」)は、この製品のセキュリティまたはシグナリングの側面のパフォーマンスまたは信頼性をテストしていません。UL は、UL の安全基準 UL60950-1 に記載されているように、火災、衝撃、または災害の危険性のみをテストしています。

本製品を使用する前に、本製品を監視目的で使用する前に、管轄区域内の関連する法律をすべて確認してください。

カメラのパラメータと機能については、製品仕様を参照してください。

規制情報

FCC 情報

FCC 準拠:この装置はテスト済みであり、FCC ルール パート 15 に規定され、クラス A デジタルデバイスの制限に準拠していることが判明しました。これらの制限は、商業環境で装置を運用する際に、有害な干渉に対して妥当な保護を提供するように設計されています。この装置は電波を発生または使用し、無線周波数エネルギーを放射する可能性があり、取扱説明書に従って設置および使用しなかった場合、無線通信に有害な干渉を引き起こすことがあります。住宅地域でこの装置を運用する場合、有害な干渉を引き起こす可能性があり、その場合はユーザ側の負担で干渉に対処する必要があります。

FCC 条件

このデバイスは、FCC ルール パート 15 に準拠しています。運用は以下の 2 つの条件に従うものとします。

1. このデバイスが有害な干渉を引き起こす可能性がない。
2. このデバイスは、望ましくない動作の原因となる干渉を含め、受信した干渉を受け入れなければなりません。

EU 適合宣言



本製品および -該当する場合- 付属品は、“CE” のマークが付いており、EMC 指令 2014/30/EU、LVD 指令 2014/35 / EU、RoHS 指令 2011/65/EU の下に記載されている該当欧州統一規格に準拠しています。



2012/19/EU(WEEE 指令):この記号が付いている製品は、欧州連合(EU)の地方自治体の未分別廃棄物として処分できません。適切にリサイクルするために、本製品は同等の新しい装置を購入する際に、お近くの販売業者に返却いただくか、指定された収集場所で処分してください。詳細については次の URL を参照してください。

www.recyclethis.info



2006/66/EC(バッテリー指令):本製品には、欧州連合(EU)の地方自治体の未分別廃棄物として処分できないバッテリーが含まれています。特殊バッテリー情報に関する製品資料をご覧ください。バッテリーにはこの記号が付いており、カドミウム(Cd)、鉛(Pb)、水銀(Hg)を示す文字も記載されています。適切にリサイクルするために、販売業者か、指定された収集場所にご返却ください。詳細については次の URL を参照してください。www.recyclethis.info

カナダ産業省 ICES-003 準拠

本デバイスは CAN ICES-3 (A)/NMB-3(A)の規格要件を満たしています。

安全上の指示

これらの指示は、ユーザが製品を正しく使用して、危険や財産の損失を避けルータめのものです。予防措置は、「警告」と「注意」に分かれています。

警告:これらの警告のいずれかが無視されると、深刻な傷害または死亡が引き起こされることがあります。

注意:これらの注意のいずれかが無視されると、傷害または装置の損傷が引き起こされる可能性があります。

<p>警告</p> <p>重大な怪我や死亡を防ぐために、これらの安全対策に従ってください。</p>	<p>注意</p> <p>けがや重大な損傷を防ぐために、次の注意事項に従ってください。</p>



警告:

- 製品を使用するには、国と地域の電気安全規制を厳守する必要があります。

- 詳細については技術仕様を参照してください。
- 複数のデバイスを1つの電源アダプタに接続しないでください。ACアダプタの過負荷は、過熱または火災の危険を引き起こす可能性があります。
- プラグが電源ソケットにしっかりと接続されていることを確認してください。
- 製品を壁や天井に取り付ける場合は、装置をしっかりと固定する必要があります。
- 機器から煙、異臭、異音が発生した場合は、すぐに電源を切って電源コードを抜いてからサービスセンターにご連絡ください。
- 製品が正常に動作しない場合は、販売店または最寄りのサービスセンターにご連絡ください。自分でカメラを分解しないでください。(不正な修理やメンテナンスに起因する問題については一切責任を負いません。)



注意:

- 製品を使用する前に電源電圧が正しいことを確認してください。
- 製品を落したり、物理的な衝撃を与えたりしないでください。
- 指でセンサモジュールに触れないでください。清掃が必要な場合は、少量のエタノールを含むきれいな布を使用し、軽く拭いてください。長期間カメラを使用しない場合は、レンズキャップをつけてセンサーを汚れから守ってください。
- 太陽や白熱灯などの強い光のもとでレンズを向けないでください。強い光は、製品に致命傷を与える可能性があります。
- センサーはレーザービームで焼き尽くされる可能性がありますので、レーザー装置を使用している場合は、センサーの表面がレーザービームに露出していないことを確認してください。
- 極端に暑いところや寒いところ(動作温度は-10° C~+60° C)ほこりの多いところや湿気の多い場所にカメラを置かないでください。高い電磁放射の場所に放置しないでください。
- 熱の蓄積を避けルータめ、適切な動作環境のためには換気が必要です。
- 水と任意の液体から離れてカメラを保管してください。
- 出荷時には、製品を元の梱包材に梱包してください。
- バッテリーを不適切に使用または交換すると、爆発の危険があります。同じまたは同等のタイプのみで交換してください。使用済みのバッテリーは、バッテリーの製造元の指示に従って廃棄してください。

内容

第 1 章 はじめに	6
1.1 製品の機能	6
1.2 概要	7
第 2 章 インストール	9
2.1 天井取り付け	9
2.2 天井への取り付け	14
第 3 章 メニュー操作	17
3.1 ビデオ出力	17
3.2 言語	18
3.3 セットアップ	18
3.3.1 スマートフォーカス	18
3.3.2 シーン	18
3.3.3 レンズ	18
3.3.4 露出	18
3.3.5 バックライト	21
3.3.6 ホワイトバランス (WB)	22
3.3.7 デイ&ナイト	23
3.3.8 NR	24
3.3.9 SPECIAL	25
3.3.10 ADJUST	32
3.3.11 RESET	33
3.3.12 EXIT	33

第1章 はじめに

1.1 製品の機能

このカメラは、高感度、高度な回路基板設計技術を備えた新世代のセンサーを採用しています。高解像度、低歪み、低ノイズなどの特徴を備えています。監視システムや画像処理システムに非常に適しています。

主な機能は次のとおりです。

- 高性能 CMOS センサーと高解像度の明るい高品質画像。
- 低照度。
- 低照度 0.0Lux (F1.2、AGC ON)、IR 付き 0LUX。
- OSD メニューの制御をサポートし、ユーザが詳細なパラメータを設定できます。
- 3D NR をサポートして、明確かつ精細な画像をとれます。
- 広ダイナミックレンジ機能をサポートします。
- 防曇機能をサポートします。
- オートホワイトバランス、オートゲインコントロールをサポートします。
- 同軸カメラコントローラーをサポートします。

1.2 概要

ボックスカメラの概要

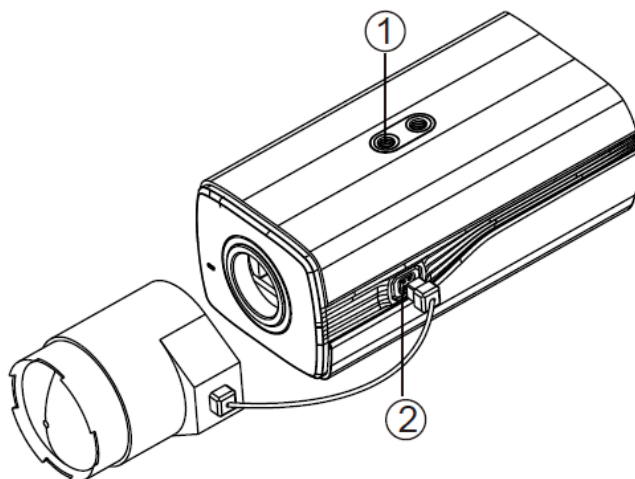


図 1-1 ボックスカメラの概要

表 1-1 ボックスカメラの説明

番号	説明
1	ロックネジ
2	オートアイリスドライブインタフェース

オートアイリスインターフェイス

図 1-2 に示すように、オートアイリスインターフェイスは、4本の正方形のピンから構成されています。

Damp +、Damp-、Drive +、および Drive-ピンは、DC 駆動モードで使用されます。

	No.	DC
	1	Damp-
	2	Damp+
	3	Driver-
4	Driver+	

図 1-2 オートアイリスインターフェイスのピン

リアパネル

ボックスカメラのリアパネルは次のように表示されます。

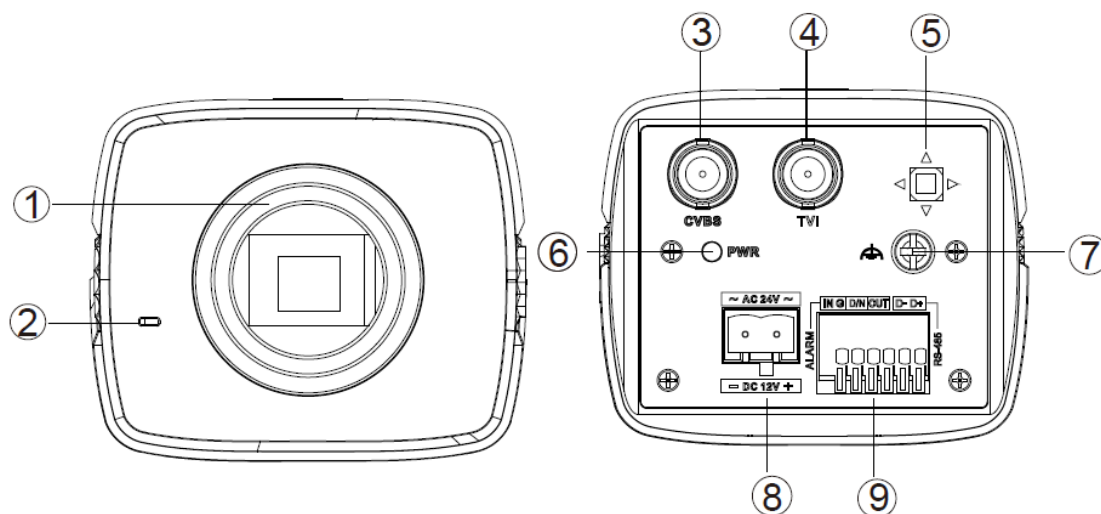


図 1-3 ボックスカメラのパネル説明

表 1-2 リアパネルの説明

番号	説明	番号	説明
1	レンズ	6	電力インジケータ
2	マイク	7	アースネジ
3	アナログビデオ出力 インターフェイス	8	電源インターフェイス
4	TVIビデオ出力 インターフェイス	9	アラーム出力、入力 GND インタフェース
5	ジョイスティック		

第 2 章 インストール

始める前に:

- パッケージ内のデバイスが良好な状態で、すべての妥当な部品が含まれていることを確認してください。
- インストール中にすべての関連機器の電源が切れていることを確認してください。
- インストール環境については、製品の仕様を確認してください。
- 損傷を避けるために電源装置が電源出力と適合しているかどうかを確認してください。
- 壁の強度がカメラの重さの 3 倍とマウントの妨げにならないようにしてください
- 壁がセメント壁の場合は、カメラを取り付ける前に拡張ネジを挿入する必要があります。壁が木製の壁の場合は、セルフタッピングネジを使用してカメラを固定できます。
- 製品が正常に機能しない場合は、販売店または最寄りのサービスセンターに連絡してください。修理やメンテナンスのためにカメラを分解しないでください。

2.1 天井取り付け

手順:

1. カメラのレンズマウントにレンズを時計回りに回します。
2. オートアイリスレンズのワイヤーをカメラのオートアイリスインターフェイスに接続します。



- レンズマウントとレンズの間に埃が入らないようにしてください。
- レンズの重量は 1KG 以下でなければなりません。CS タイプのインターフェイスを備えたレンズを取り付ける方が良いでしょう。レンズのインターフェイスが C タイプの場合は、レンズとカメラの間に C アダプタを取り付ける必要があります。

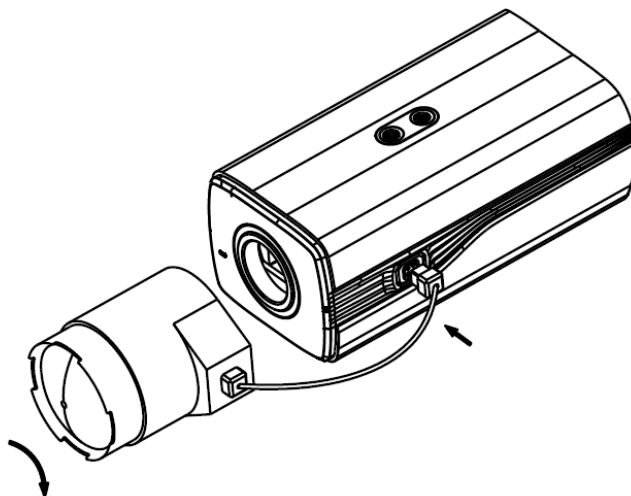


図 2-1 バックプレーンにカメラを固定する

3. バックプレーンをカメラハウジングから取り外します。図 2-2 に示すように、付属のネジでカメラをバックプレーンに取り付けます。

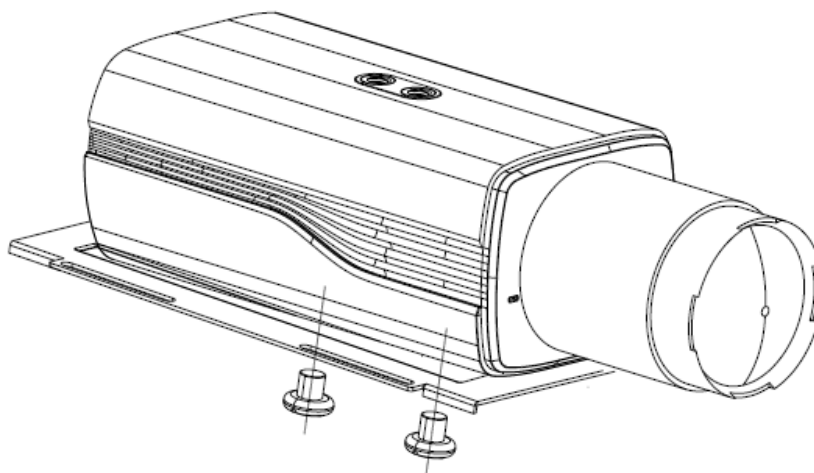


図 2-2 バックプレーンをカメラハウジングに固定する

4. 図 2-3 に示すように、バックプレーンをカメラハウジングに固定します。

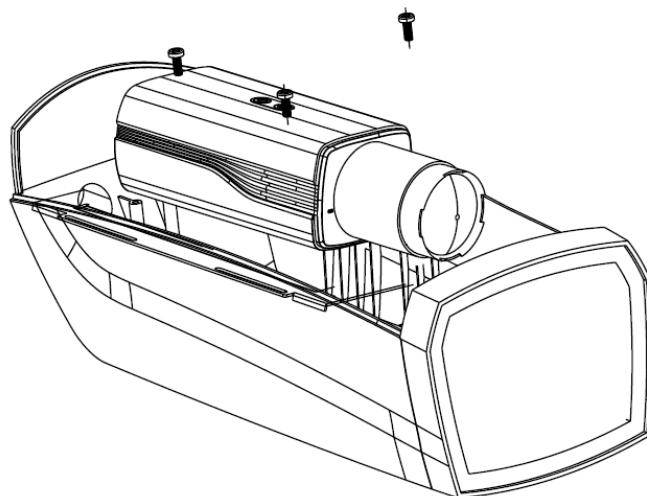


図 2-3 カメラをハウジングに固定する

5. レンズの焦点距離を調整し、焦点調整を完了します。
 - ズームレバーをT「望遠」とW「広角」の間で動かすと、適切な画角が得られます。
 - フォーカスレバーをF(遠)とN(近)の間で動かすと、最適なピントが得られます。



非実用的なアプリケーションでは、センサーのサイズに応じて対応するレンズを選択する必要があります。自動絞りレンズは最大絞りモードで動作します。

6. カメラを対応するケーブルで接続し、ケーブルをカメラハウジングの底面のケーブル穴に通します。カメラハウジングを閉じてロックします。
7. 図 2-4 のように、ドリルテンプレートに従って壁にネジ穴をドリルします。

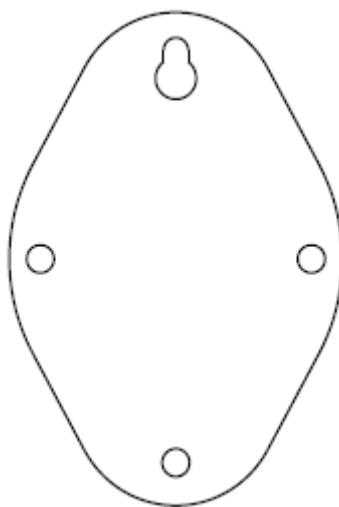


図 2-4 マウントテンプレート

8. 図 2-5 のように、ウォールマウントを壁に取り付け、ネジを締めて固定します。

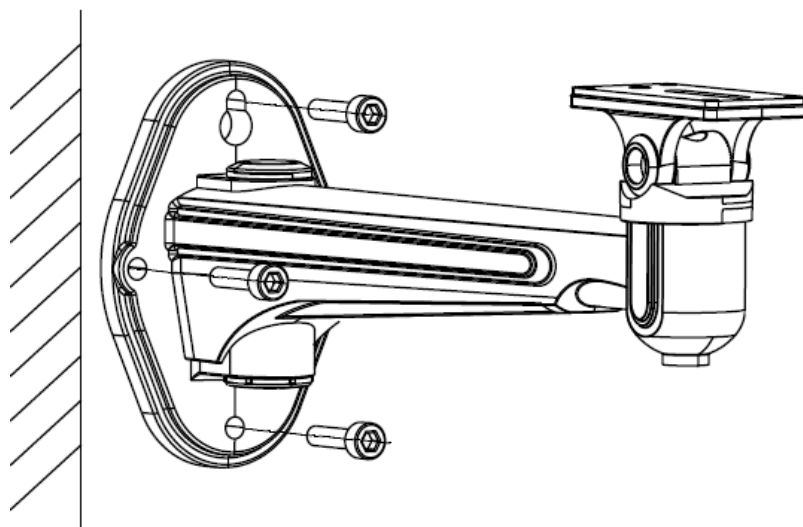


図 2-5 ブラケットの取り付け



ウォールマウント(付属していません)は、カメラの長さの 1/2 より長くする必要があります。

9. 図 2-6 に示すように、ハウジングと一緒にカメラを壁掛けに取り付け、固定ねじを締めてカメラを固定します。

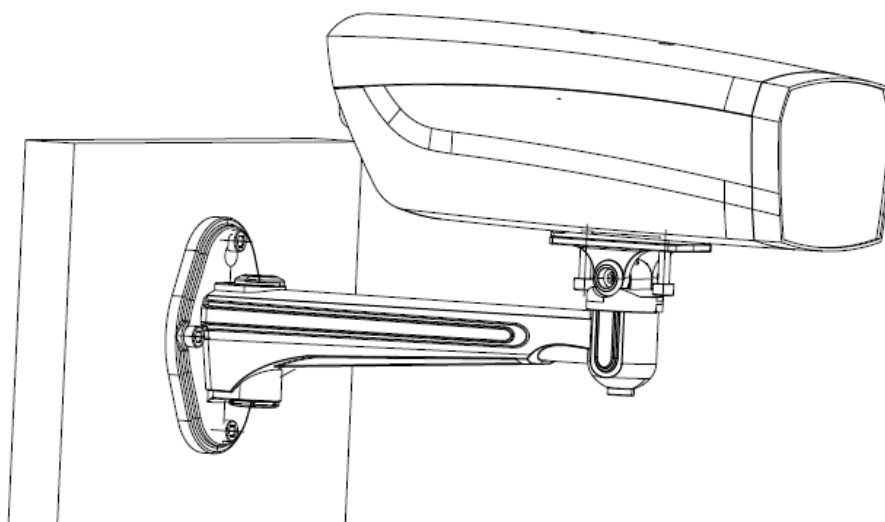


図 2-6 カメラハウジングの固定

10. 図 2-7 に示すように、パンニングロックネジを緩めて、カメラのパン角度を調整します。

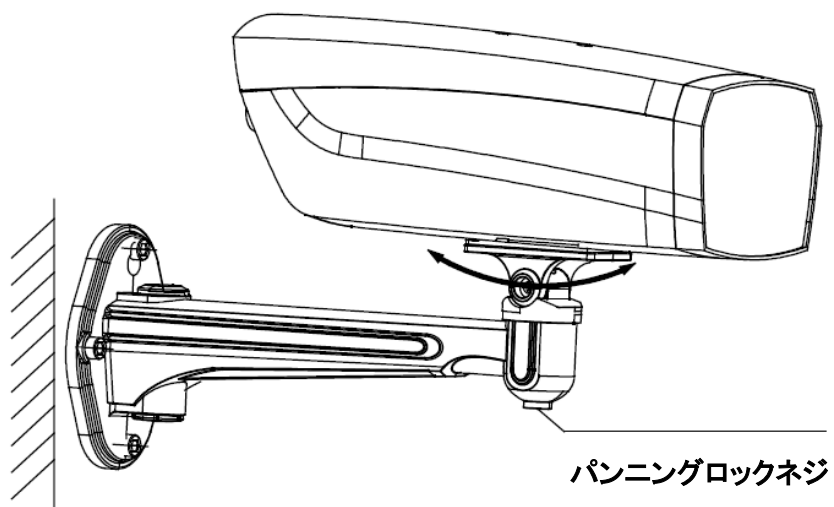


図 2-7 パン角度の調整

11. 図 2-8 に示すように、傾動ロックネジを緩めます。カメラの傾斜角度を調整することができます。

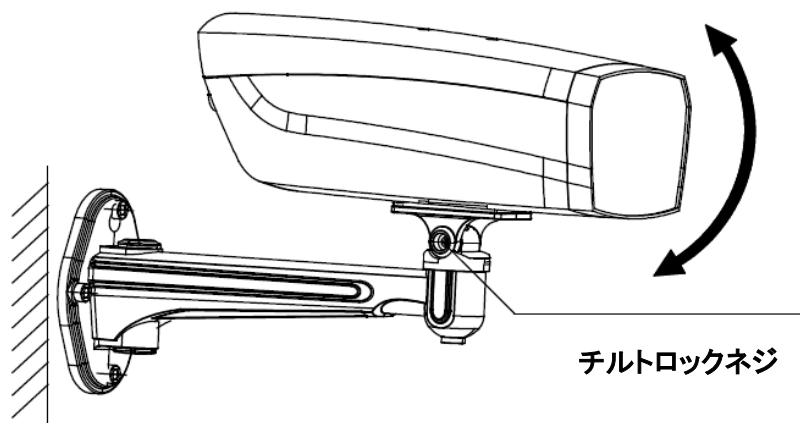


図 2-8 チルト角度の整

2.2 天井への取り付け

手順:

1. 図 2-9 に示すように、ドリルテンプレートに従って壁にネジ穴を通します。

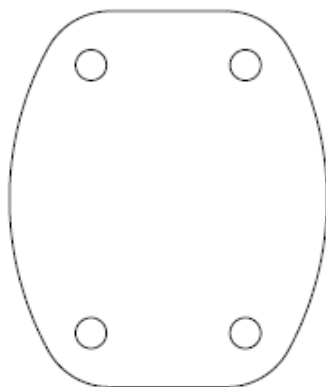


図 2-9 テンプレートの取り付け

2. 図 2-10 に示すように、天井マウントを壁に取り付け、ネジを締めて固定します。

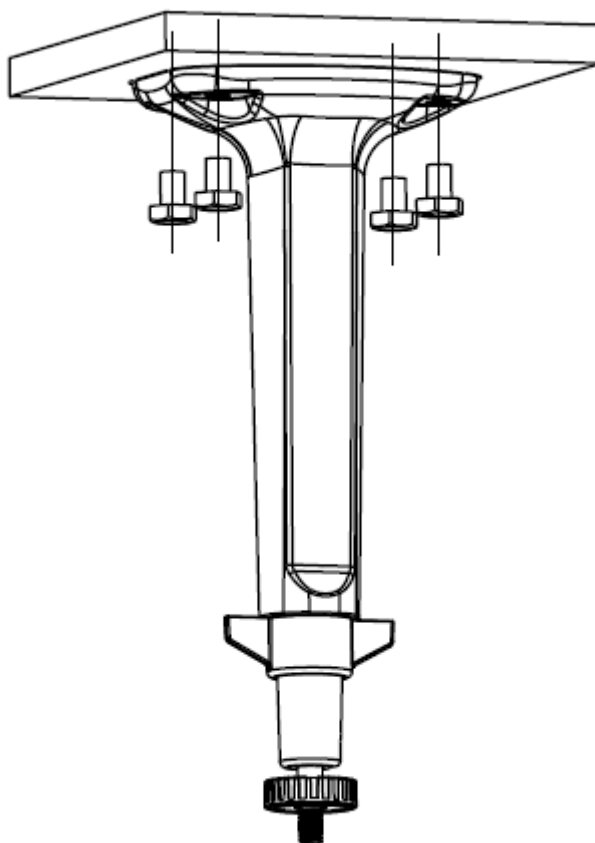


図 2-10 ブラケットの取り付け

3. 図 2-11 に示すように、カメラを天井に取り付け、固定ネジを締めてカメラを固定します。

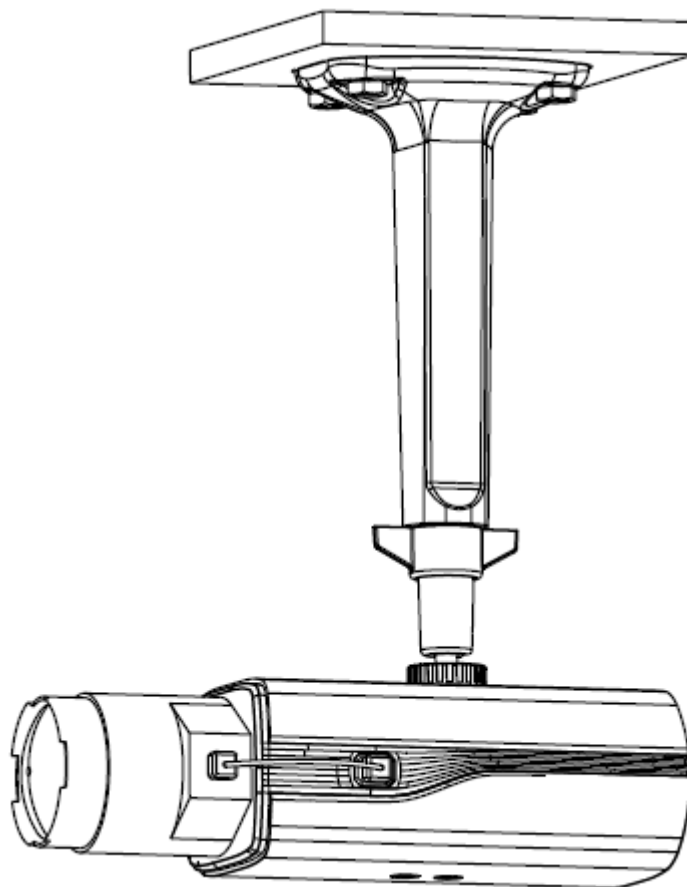


図 2-11 カメラハウジングの固定

4. 調整可能なナットを緩めて、カメラのパン角度とチルト角度を調整します。

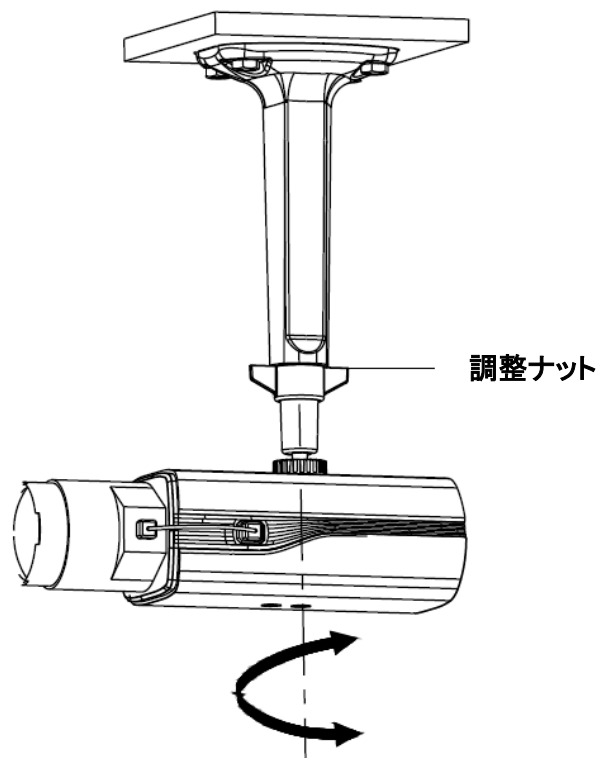


図 2-12 角度調整

第3章 メニュー操作

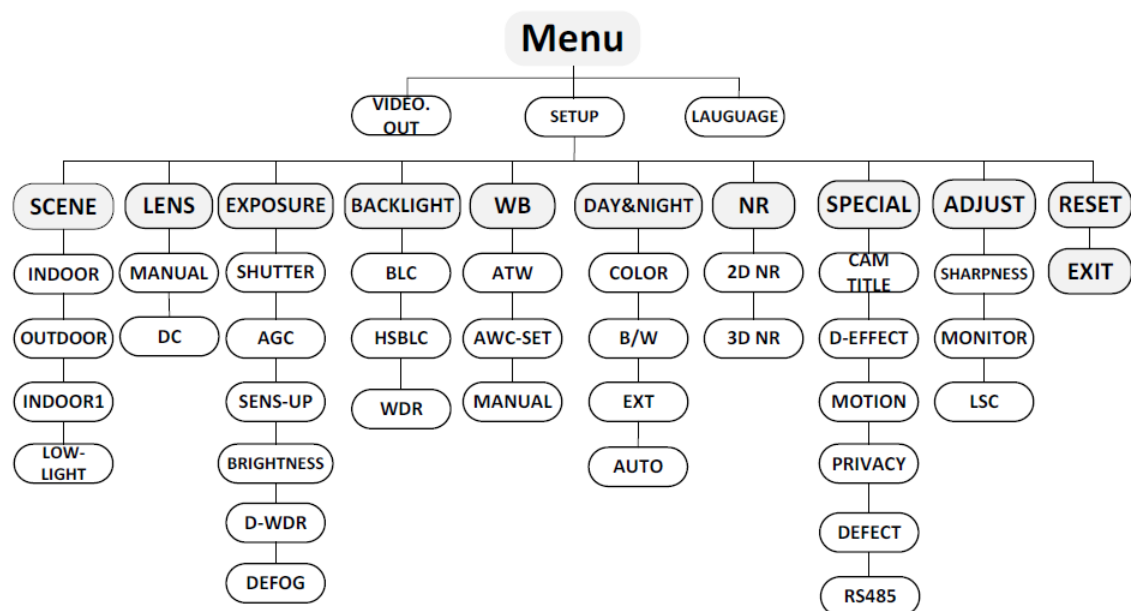


図 3-1 メインメニューの概要



- このシリーズのカメラはジョイスティックを採用してメニューを選択し、選択を確認します。
- ジョイスティックを上下に動かしてメニュー項目を選択します。
- ジョイスティックを左右に動かして、選択した項目の値を調整します。
- ジョイスティックを押して選択を確定します。以下の章で説明するメニューボタンは、ジョイスティックを指します。

3.1 ビデオ出力

PAL (Phase Alternating Line) は、576i で放送されているほとんどの国の放送テレビシステムにおけるアナログテレビのカラーエンコーディングシステムです。

NTSC (National Television System Committee) は、北アメリカの大部分、南米ミャンマー、韓国の一部などで使用されているアナログテレビシステムです。

ジョイスティックを左右に動かして、必要なビデオ出力規格を選択します。

3.2 言語

一連のカメラは複数の言語をサポートしています。英語、日本語、CHN1、CHN2、韓国語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポーランド語、ロシア語、ポルトガル語、オランダ語、トルコ語、ヘブライ語、アラビア語を選択できます。

3.3 セットアップ

3.3.1 スマートフォーカス

フォーカス調整が完了したら、スマートフォーカスメニューに入り、画面に表示されている値を確認します。値が大きいほど、ピントが良くなります。もう一度ジョイスティックを押すとメニューが終了します。

3.3.2 シーン

シーンオプションを使用すると、さまざまな作業環境を選択できます。屋内、屋外、低光のオプションを選択できます。

3.3.3 レンズ

カメラのレンズは手動または DC として選択できます。

3.3.4 露出

EXPOSURE	
1. SHUTTER	AUTO
2. AGC	OFF
3. SENS-UP	---
4. BRIGHTNESS	--- ----- 40
5. D-WDR	OFF
6. DEFOG	OFF
7. RETURN	RET

図 3-2 露出

露出は輝度関連のパラメータを記述します。さまざまな光条件で、シャッター、AGC、センサーアップ、明るさ、ACCE、バックライトなどで画像の明るさを調整することができます。

シャッター

シャッターは、シャッターの速度を示します。

AUTO、1/30、1/60、FLK、1/240、1 / 480、1 / 1k、1 / 2k、1 / 5k、1 / 10k、1 / 50k を選択できます。



シャッターをオートまたは 1/30 に設定すると、SENS-UP が調整可能 (OFF / AUTO) になり、他のシャッタースピードを選択すると SENS-UP が無効になります。

AGC

これは、光景が悪いときの画像の明瞭さを最適化するために、カメラが標準よりもはるかに低い光条件で受信した画像を自動的にブーストする増幅形式です。AGC の値は 1~15 に設定できません。



AGC がオンの場合、ノイズが増幅されます。

SENS-UP



シャッターをオートまたは 1/30 に設定すると、SENS-UP が調整可能 (OFF / AUTO) になり、他のシャッタースピードを選択すると SENS-UP が無効になります。

SENS-UP は信号フレームの露光量を増やします。これにより、カメラは光に対してより敏感になり、低ルクス状態でも画像を生成することができます。さまざまな照明条件に応じて、SENS-UP を OFF または AUTO に設定することができます。

OFF: SENS-UP 機能を無効にします。

AUTO: SENS-UP 機能は、さまざまな照明条件に応じて自動的に x2、x4、x6、x8、x10、x15、x20、x25、x30 に調整されます。

輝度

明るさとは、画像の明るさを指します。明るさの値を 1~100 に設定して、画像を暗くしたり明るくしたりすることができます。値が大きいほど、画像が明るくなります。

D-WDR

デジタルワイドダイナミックレンジ(D-WDR)機能は、バックライト光の下でもカメラが鮮明な画像を提供するのに役立ちます。D-WDR は、非常に暗い領域が視野に同時に存在する場合、画像全体の明るさレベルと明瞭な画像を詳細にバランスさせます。

D-WDR を ON に設定して、ブラックライト環境下で画質を改善してください。

D-WDR を OFF に設定して機能を無効にします。

デフグ

DEFOG は、霧雨や雨天などの特殊な環境や、通常的环境よりもダイナミックレンジが低く、画像が常に濁っている高照度で使用されます。デフグ機能を有効にすると、画像がより鮮明に見えるように微妙な詳細を強調できます。

機能を有効にするにはデフグ機能を ON に設定し、位置、サイズ、およびデフォグのグラデーションを設定できます。

DEFOG	
1. POS/SIZE	↵
2. GRADATION	LOW
3. DEFAULT	↵
4. RETURN	RET

図 3-3 デフグ

手順:

1. カーソルを POS / SIZE に移動し、OK を押して位置とサイズの設定インターフェイスに入ります。
2. ジョイスティックを上/下/右/左に動かして、防曇領域の位置を定義します。
3. OK をもう一度押して、位置設定をサイズ設定に切り替えます。
4. ジョイスティックを上/下/右/左に動かして、防曇領域のサイズを定義します。
5. OK を押し、RET を選択してデフグメニューに戻るか、AGAIN を選択して位置とサイズを再定義します。
6. (オプション)カーソルを DEFAULT に移動し、OK を押してデフォグ設定をデフォルトに戻します。

低、中、高は曇りのグラデーションに選択できます。



DEFOG 機能を有効にすると、画像のコントラストが増加します。通常的环境では、DEFOG 機能を OFF に設定することをお勧めします。

3.3.5 バックライト

バックライトは、バックライトまたは高輝度環境に適用できます。バックライトを OFF、BLC、WDR、および HSBLC があります。

逆光補正 (BLC):

強いバックライトがある場合、バックライトの前のオブジェクトは、シルエットまたは暗い表示されます。バックライトは、画像全体の明るさを向上させるために、強いバックライトの前の領域をはっきりと見ることを可能にするが、バックライト領域は過度に露出されます。

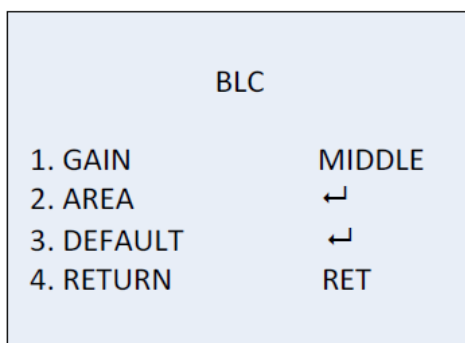


図 3-4 BLC

BLC のゲインを **High**、**Middle**、**Low** に設定すると、ゲインが高くなればなるほど、画像が鮮明になります。BLC 領域を設定するには、以下の手順に従ってください。

手順:

1. カーソル **AREA** を動かし、**OK** を押してエリア編集インターフェイスに入ります。
2. ジョイスティックを上/下/左/右に動かして、BLC の位置を定義します。
3. **OK** を押して領域サイズ編集インターフェイスに入ります。
4. ジョイスティックを上/下/左/右に動かして、BLC サイズを定義します。
5. **OK** を押して選択を確定し、**RET** を選択して BLC メニューに戻るか、**AGAIN** を選択して BLC 領域を再定義します。
6. (オプション)カーソルを **DEFAULT** に移動し、**OK** を押して BLC 設定をデフォルトに戻します。

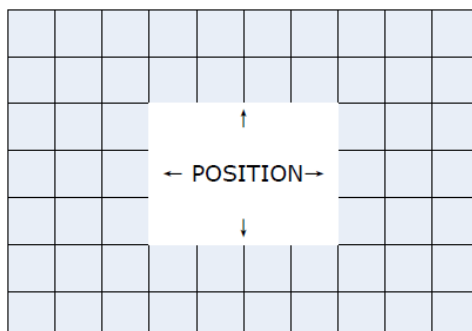


図 3-5 BLC 領域の定義

HSBLC

HSBLC は、通常はシーン全体に広がる強い光源をマスクします。これにより、通常隠されている画像の詳細を見ることができます。

手順:

1. カーソルを左右に動かして **HSBLC** を選択し、**OK** を押して編集インターフェイスに入ります。
2. カーソルを **SELECT** に移動し、ジョイスティックを左右に動かして領域を選択します。4 つの領域を選択できます。
3. **DISPLAY** を ON / OFF に設定して、HSBLC 領域を有効/無効にします。
4. **OK** を押して、位置/サイズ編集インターフェイスに入ります。
5. ジョイスティックを上/下/左/右に動かして、HSBLC 領域の位置を定義します。
6. **OK** を押してサイズ編集インターフェイスに切り替えます。
7. ジョイスティックを上/下/左/右に動かして、HSBLC 領域のサイズを定義します。
8. **OK** を押して設定を確認し、**RET** を選択して HSBLC メニューに戻るか、**AGAIN** を選択して HSBLC 領域を再定義します。

● レベル

0~100 の範囲で調整できます。明るさが設定したレベルより高い場合は、HSBLC が有効になります。

● モード

ALL DAY は HSBLC を一日中動作します。**Night** は HSBLC を夜間のみ動作します。

● ブラックマスク

ON / OFF を選択できます。ブラックマスクが ON に設定されている場合のみ、HSBLC は効果がかかります。ブラックマスクを OFF に設定すると、HSBLC 機能は無効になります。

● デフォルト

DEFAULT を選択すると、すべての HSBLC 設定がデフォルト値に戻ります。

WDR

ワイドダイナミックレンジ (WDR) 機能は、明るい環境下でもカメラが鮮明な画像を提供するのに役立ちます。視界内に非常に明るい領域と非常に暗い領域が同時に存在する場合、WDR は画像全体の輝度レベルをバランスさせ、詳細を鮮明に表示します。

ゲインレベルを低、中、高に設定できます。

WDR の明るさとオフセット値を 0~60 に設定できます。

3.3.6 ホワイトバランス (WB)

ホワイトバランスは、環境に応じて色温度を調整するためのカメラの白色演出機能です。それはイメージの非現実的な色のキャストを取り除くことができます。

MANUAL、ATW(オートトラッキングホワイトバランス)、AWC→SET を選択できます。

- **マニュアル**

マニュアルモードでは、1～100 の範囲の青と赤の値をカスタマイズしてホワイトバランスを調整することができます。

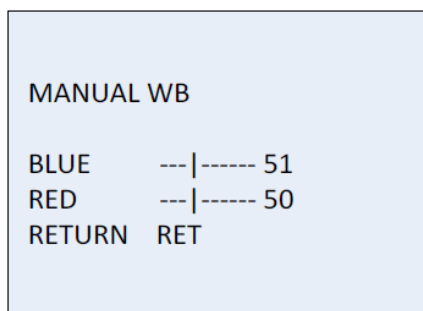


図 3-7 マニュアルホワイトバランス

- **ATW**

ATW モードは、シーン照明の色温度に応じてホワイトバランスがリアルタイムで連続的に調整されていることを示します。

- **AWC→SET**

AWC→SET ATW と同様に、AWC→SET が選択されているとシーンに応じてホワイトバランスがリアルタイムで連続的に調整され、ただし、シーンが変更された場合は、AWC→SET に移動して、新しいシーンに適した別のホワイトバランスを取得する必要があります。



B / W モードを選択した場合、ホワイトバランスは調整できません。

3.3.7 デイ&ナイト

DAY&NIGHT スイッチでは、カラー、白黒、EXIT、AUTO を選択できます。

- **カラー**

画像は常に昼間モードで色付けされています。

- **B/W**

画像は常に白黒ですが、暗い場所では赤外線 LED が点灯します。

- **EXIT**

画像は、光の状態に応じて自動的にカラーから白黒または白黒からカラーに切り替わります。

- **AUTO**

設定されたしきい値と実際の照明条件を比較することによって、画像はカラーB / W または B / W から自動的に色付けされます。

Delay: 閾値強度に達した後、カメラがスイッチ操作を実行する前にレイテンシの持続時間を設定できます。この機能により、突然の照明変化やレンズのブロッキングによる無意味な切り替えを効果的に防止することができます。

D->N(AGC): 閾値は、現在の光状態において画像をカラーから B / W に切り替えるかどうかを決定するために、0~100 まで設定可能です。

N->D(AGC): 閾値は、現在の光状態において画像を B / W から色に切り替えるかどうかを決定するために、0~100 まで設定可能である。

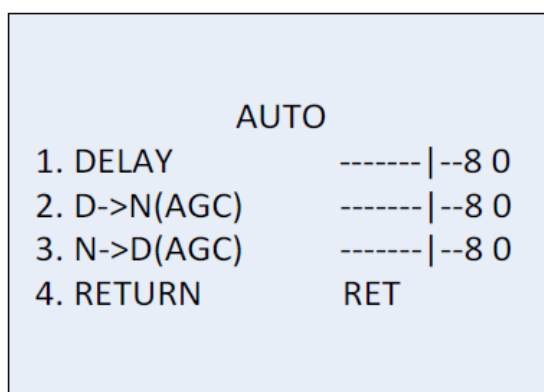


図 3-8 オート

3.3.8 NR

NR(ノイズリダクション)は、ビデオストリームのノイズを低減するために使用されます。

カーソルを NR に移動し、OK を押して NR サブメニューに入ります。

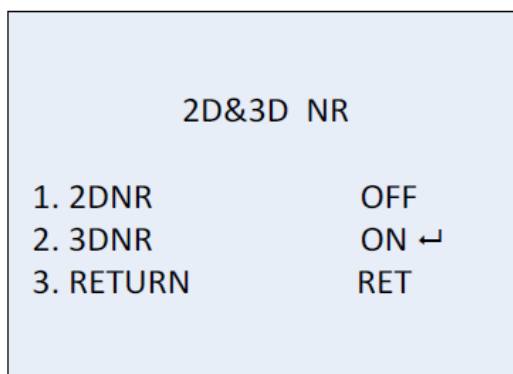


図 3-9 NR

- 2D NR

2D NR は、1 つのフレーム内のノイズを低減して、穏やかな画像を取れます。ジョイスティックを左右に動かすことで ON / OFF を設定できます。

- 3D NR

従来一般的な 2D NR 技術と比較して、3D NR は 1 フレームではなく 2 フレーム間のノイズ低減を処理します。低照度で動画を撮影し、より正確で鮮明な画質を提供する場合、ノイズ効果を低減できます。

3D NR	
1. SMART NR	ON ←
2. LEVEL	----- --80
3. START. AGC	- -----10
4. END. AGC	- -----10
5. RETURN	RET

図 3-10 3D NR

SMART NR は、通常、3D NR と協力して有効になります。イメージの流暢さを向上させるために ON に設定することができます。SMART NR を無効にするには、OFF に設定します。3D スマート NR の感度は 0~100 です。

3D SMART NR	
1. SENSITIVITY	----- --80
2. RETURN	RET

図 3-11 SMART NR

3D NR レベルの範囲は 0~100 です。

AGC を AGC 開始から有効にする閾値を設定し、AGC を AGC 終了から無効にする閾値を設定することができます。

3.3.9 SPECIAL

SPECIAL サブメニューでは、カメラ名、画像のデジタル効果、モーション検出、プライバシータスク、言語、デッドピクセル補正、およびカメラのバージョンを確認することができます。

SPECIAL	
1. CAM TITLE	ON ↵
2. D-EFFECT	↵
3. MOTION	OFF
4. PRIVACY	OFF
5. DEFECT	↵
6. RS485	↵
7. RETURN	RET

図 3-12 SPECIAL

CAMERA Title

CAM TITLE を設定すると、カメラに名前を付けることができます。カーソルを **CAM TITLE** に移動し、ON に設定し、OK を押して編集インターフェイスに入ります。最大 15 文字を選択できます。

ON:カメラのタイトルを表示します。

OFF:カメラのタイトルを表示しません。

CAM TITLE										
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V
W	X	Y	Z	▶	→	←	↑	↓	()
˘	-	_	■	/	=	&	:	~	,	.
←	→	CLR	POS	END						
<u>C</u>	<u>A</u>	<u>M</u>	<u>E</u>	<u>R</u>	<u>A</u>	<u>0</u>	<u>1</u>	<u>_</u>	<u>_</u>	<u>_</u>

図 3-13 CAM Title

手順:

1. カーソルを←または→に移動し、OK を押して点線の文字位置を決定します。
2. カーソルを動かして必要な文字、数字、記号を選択します。
3. OK を押して確定します。選択した文字が下の点線で表示されます。
4. カーソルを POS に移動すると、画面上のカメラのタイトル位置が編集されます。
 - 1) カーソルを POS に移動します。
 - 2) OK を押して、CAM TITLE の位置設定インターフェイスに入ります。
 - 3) ジョイスティックを上下左右に動かして、カメラタイトルの位置を変更します。

- 4) **OK** を押して CAM TITLE 位置設定インターフェイスを終了し、CAM TITLE メニューに戻ります。
5. (オプション) 選択したすべての文字をクリアするには、カーソルを CLR に移動します。
6. カーソルを **END** に移動し、**OK** を押して設定を保存し、前のメニューに戻ります。

D-effect

D-EFFECT	
1. FREEZE	OFF
2. MIRROR	OFF
3. D-ZOOM	OFF
4. SMART D-ZOOM	OFF
5. NEG. IMAGE	OFF
6. RETURN	RET

図 3-14 D-effect

● FREEZE

フリーズ機能を **ON** または **OFF** に設定できます。ON に設定すると、イメージはそのまま凍結されます。ライブビューは、フリーズを ON にした瞬間にとどまります。



FREEZE が ON の場合、ミラー機能は無効になります。

● MIRROR

OFF、MIRROR、V-FLIP、ROTATE はミラー用に選択できます。

OFF: ミラー機能が無効になります。

ミラー: 画像は水平方向に 180 度反転します。

V-FLIP: 画像が垂直に 180 度反転します。

ROTATE: 画像は水平方向と垂直方向に 180 度反転します。

● D-ZOOM

D-ZOOM を **ON** に設定すると、画像を拡大することができます。デジタルズームが処理されると、画像は実際のピクセルを取得せずに拡大されます。

D-ZOOM	
1. D-ZOOM	x 2.0
2. PAN & TILT	←
3. DEFAULT	←
4. RETURN	RET

図 3-15 D-Zoom

最小倍率は x2、最大倍率は x62 です。

PAN&TILT からの位置を設定してズームエリアを定義し、D-Zoom 設定をデフォルトに戻すことができます。

● SMART D-ZOOM

SMART D-Zoom は、あらかじめ定義された領域で検出されたモーションオブジェクトを拡大します。D-Zoom エリア、感度、および時間は、SMART D-Zoom 編集インターフェイスから設定できません。

SMART D-ZOOM	
1. SELECT	AREA1
2. DISPLAY	ON ←
3. SENSITIVITY	--- ----31
4. D-ZOOM	x 2.0
5. TIME	-- -----3
6. DEFAULT	←
7. RETURN	RET

図 3-16 SMART D-Zoom



D-Zoom と Smart D-Zoom を同時に有効にすることはできません。

2 エリアを選択できます。ジョイスティックを上下に動かしてエリアを選択します。

Smart D-Zoom エリアの表示/非表示を設定します。

ディスプレイが ON に設定されている場合は、OK を押して位置編集インターフェイスに入り、Smart D-Zoom エリアを定義します。

感度は 0~60 です。感度が高いほど Smart D-ZOOM がトリガーされやすくなります。

最小倍率は x 2.0 であり、最大倍率は x62.0 です。

時間は倍率の持続時間を指し、0 から 15 まで設定できます。

DEFAULT にカーソルを合わせ、OK を押すと、Smart D-Zoom の設定がデフォルトに戻ります。

● NEG.IMAGE

NEG IMAGE を ON または OFF に設定できます。ON に設定すると、画像の明るい部分と暗い部分が逆になります。

Motion

ユーザ定義の動体検知監視エリアでは、移動物体が検出され、アラームがトリガーされます。

MOTION	
1. SELECT	AREA 1
2. DISPLAY	ON ↵
3. SENSITIVITY	---- ---- 30
4. MOTION VIEW	ON
5. DEFAULT	↵
6. RETURN	RET

図 3-17 動体検知

動体検知エリアの設定:

手順:

1. **SELECT** にカーソルを移動し、動体エリアを選択します。4 つの領域を選択できます。
2. カーソルを **DISPLAY** に移動し、ON にして OK を押すと、モーション検出編集インターフェイスに入ります。
3. ジョイスティックを上下左右に動かして、選択した動体エリアの位置を定義します。
4. 位置が定義されたら、OK を押して領域サイズ設定インターフェイスに入ります。
5. ジョイスティックを上下左右に動かして、選択した領域のサイズを定義します。
6. OK を押してサイズ設定を確認し、RET を選択して動体メニューに戻り、もう一度試して AGAIN を選択してください。
7. (オプション)カーソルを **DEFAULT** に移動し、OK を押して動体設定をデフォルトに戻します。

● SENSITIVITY

これは、0 から 6 までの範囲の動体検知の感度を指します。感度が高いほど、検知の応答性が向上します。

● MOTION VIEW

モーションビューでは、動体が検知されたときの視覚的判断が向上します。モーションが発生すると、モーションビューを **ON** に設定します。透明な赤いモザイクがちらつき、モーションが発生する正確な場所を表示することができます。OFF の場合、モーションビューを無効にします。

Privacy

プライバシーマスクを使用すると、表示または記録したくない特定の領域をカバーできます。最大 8 つのプライバシーエリアを設定できます。

MOTION	
1. SELECT	AREA 1
2. DISPLAY	ON ←
3. SENSITIVITY	---- ---- 30
4. MOTION VIEW	ON
5. DEFAULT	←
6. RETURN	RET

図 3-18 プライバシーマスク

プライバシーマスクの設定:

手順:

1. SELECT にカーソルを移動し、プライバシーマスク領域を選択します。8 つの領域を選択できます。
2. カーソルを DISPLAY に移動し、OK を押してプライバシーマスク編集インターフェイスに入ります。

INV.、MOSAIC、COLOR、および OFF を表示用に選択できます。

INV.: プライバシーマスク領域は、画像の明るい領域と暗い領域を変換します。

MOSAIC: プライバシーマスク領域は、ちらつきモザイクで表示されます。

COLOR: プライバシーマスク領域は選択可能な色で表示されます。16 色を選択できます。



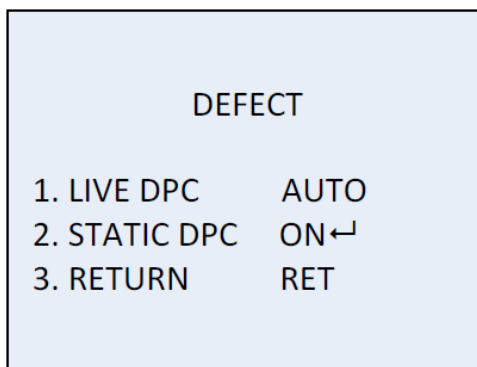
カラーと TRANS [0-3] は、ディスプレイがカラーに設定されている場合にのみ機能します。

3. ジョイスティックを上/下/左/右に動かして、選択したプライバシーマスク領域の位置を定義します。
4. 位置が定義されたら、OK を押して領域サイズ設定インターフェイスに入ります。選択した領域の左上、右上、左下、および右下を構成して、サイズを定義します。
5. OK を押して設定を確定し、RET を選択してプライバシーマスクメニューに戻るか、AGAIN を選択して再試行してください。

6. (オプション)カーソルを **DEFAULT** に移動し、**OK** を押してプライバシーマスク設定をデフォルトに戻します。

Defect

欠陥画素は、欠陥画素が光レベルを正しく感知しないデジタルカメラの CCD または CMOS イメージセンサ内の画素である。この一連のカメラは欠陥ピクセル補正をサポートしています。カーソルを **DEFECT** に移動し、**OK** を押して欠陥画素補正インターフェイスに入ります。



● LIVE DPC

ライブ DPC は、動的またはリアルタイムの欠陥を検出して修正します。ピクセルは使用中に発生します。**ON**、**OFF** または **AUTO** を選択できます。LIVE DPC が **ON** に設定されている場合、補正レベル[0-255]は設定可能です。ライブ欠陥ピクセル補正を無効にするには **OFF** に設定します。欠陥ピクセルを自動的に検出し修復するように **AUTO** に設定します。

● STATIC DPC

STATIC DPC は、使用中に発生する静的または固定の欠陥ピクセルを検出して修正します。**ON** / **OFF** を選択できます。

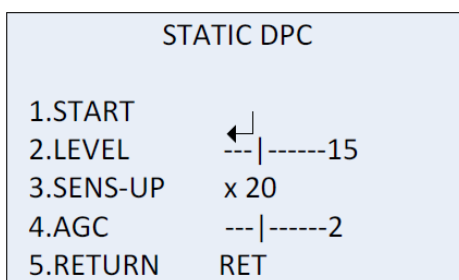


図 3-20 静的 DPC

手順:

1. STATIC DPC を **ON** に設定し、**OK** を押してスタティック DPC 編集インターフェイスに入ります。
2. カーソルを **START** に移動し、**OK** を押すと、欠陥ピクセルの修正が開始されます。
3. 「IRIS をを閉じてから Enter キーを押す」メッセージが表示されたら、**OK** を押してください。STATIC DPC のレベルは 0~60 の範囲です。

欠陥ピクセルのいくつかは、システムが検出するために区別がつかない場合があります。SENS-UP を X2、X4、X6、X8、X10、X15、X20、X25 または X30 に調整して、欠陥のあるピクセルを明るくしてシステムが見つけれられるようにすることができます。AGC レベルは 0~8 に設定できます。

RS485

このメニューでは、カメラ ID、ID 表示ステータス、ボーレート(2400/4800/9600/19200/38400)などの RS485 のパラメータを設定できます。

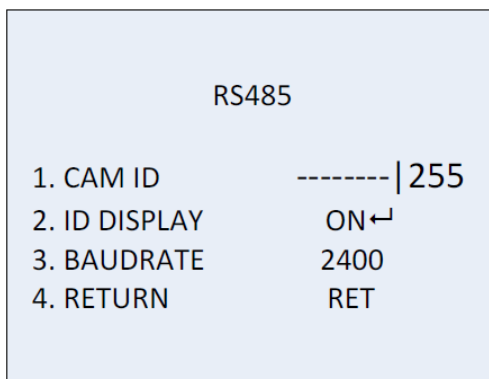


図 3-21 RS485

3.3.10 ADJUST

調整サブメニューでは、シャープネス、モニターの画質、OSD 設定、レンズシャドウ補正、ビデオ出力標準などの設定を行うことができます。カーソルを ADJUST に移動させ、OK を押して調整設定インターフェイスに入ります。

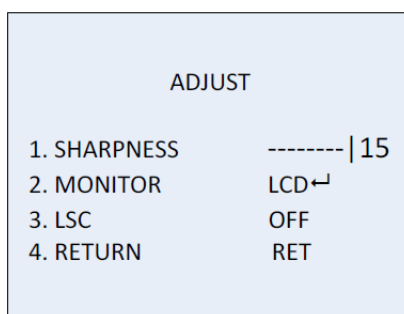


図 3-22 ADJUST

Sharpness

シャープネスは、イメージングシステムが再現できる細部の量を決定します。また、シャープネスを 0 から 15 まで調整することができます。値が大きいほど、画像が鮮明になります。

Monitor

モニター-CRT、モニター-LCD を選択できます。

陰極線管 (CRT) は、画像を見るために使用される蛍光スクリーンである。黒レベル[-30~+30]、青ゲイン[-50~50]、赤ゲイン[-50~50]をユーザ定義できます。

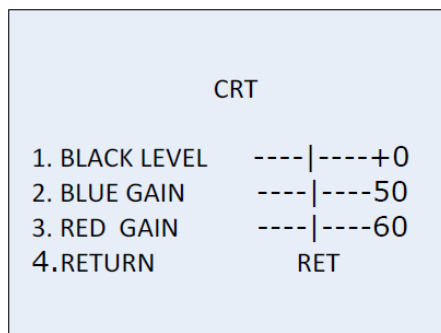


図 3-23 モニターCRT

液晶ディスプレイ(LCD)が選択されている場合。ガンマ、青色ゲイン[0~100]、赤色ゲイン[0~100]をユーザ定義することができます。

ガンマは、ビデオまたは静止画システムの輝度または三刺激値を符号化および復号化するために使用される非線形演算の名前です。

USER + Y、USER、AUTO、1.00,0.95,0.90,0.85,0.80,0.75,0.70,0.65、0.60,0.55,0.50 および 0.45 が選択可能である。

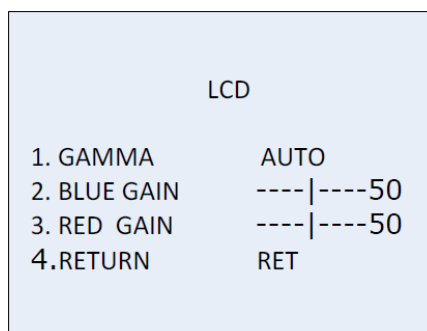


図 3-24 モニターLCD

LSC

LSC(レンズシェーディング補正)は、画像が周辺で暗くなったりぼやけたりする現象を補正します。

ON に設定して、LSC を有効にします。

OFF に設定して、LSC を無効にします。

3.3.11 RESET

すべての設定をデフォルトにリセットします。

3.3.12 EXIT

EXIT にカーソルを移動し、OK を押してメニューを終了します。